



12年前日記

2000年2月5日（土）

山田夫妻

『12年前日記 2000年2月5日（金）前編』

【2000年2月5日（土）】＊2012年2月5日（日）記

朝9時、ハイジャックされることなくエアインディア機は定刻通りかどうか知らないが8時間以上のフライトで、ようやく成田着。

52泊53日の初取材の旅から生きて日本の土を踏めた、千葉くんだりの成田空港内の床だけど。帰り男シリーズ、タイ帰りの男追加。

とにかく日本に何とか逃げ帰れたのだ。そして、奇しくもまた本日は土曜日。しかし、ココ、日本の不動産屋は土日もやってます。日本っていいな、日本人でよかったな。そんな結論かい！

帰国早々、タイでは禁じてきた不完全な自分ノリツッコミをついつい浮かれて、ホント気が緩んだ証拠だ...嗚呼、おかえりなさい。

日本で書くべきこともないので、そろそろ締め言葉をば。

俺の古本屋さん人生はまだまだ始まったばかりだ。いつかきっとまたタイヘリベンジへ向かうだろう。そして、かならずや見返してやる、古本売買で、ギャフンと。

ついでに、10年後の俺に宿題を出しといた。1999年と2000年の俺が協力し、頑張っている取材したんだから、12年後、2011年と2012年の俺が協力してまとめて書き上げろよ（ハイハイ、仰せの通り、超形ばかりとは言え、一応12年前の宿題を果たし終えた2012年の俺も最後の登場と相成りましたが、登場人物のその後を牛歩でお知らせし、お別れのご挨拶代わりに、次ページの後編でグダグダぶりをお見せしよう、そうしよう）。

2000年2月某日某曜日

無事に更新日まで新しい部屋を借りることに成功し、池袋から都落ちのお引越し。心機一転したので、例の某フリージャーナリストの溜り場こと、アソコに後ろ足で砂をかけに行く。

「あの～、実は私、生まれつき自称プロ戦場特派員じゃなくて、生まれつきベトナム戦争の自称プロ戦場特派員だったことが発覚しましたので、今後は焚きつけられたカレンはもちろん、他のどの戦場にも見向きもしません。だからお見合い戦場を勧めても無駄無駄。そんなことより、一緒に考えてくださいよ、1975年4月に終結したベトナム戦争を、2000年2月の俺がどうやったら取材できるのか。まあ、完全に頭がアレになっちゃったと思われるので、「とりあえず難民キャンプの取材パスが取れなくて、すぐ嫌になっちゃったので、観光旅行に鞍替えして遊んで帰ってきました」とご報告。実は、いきなり最初から観光旅行に切り替えて遊んでいたのは絶対内緒だぞ。もっとすごい秘密をまだ隠し持ってるけどね、墓場直行！

このままアソコにグズグズいても、「そろそろまたソープにいこうぜ」って軽い感覚で、運命でもなんでもない戦場を斡旋されちゃう。俺にはもう許婚の運命の戦場、ベトナム戦争がいるにも関わらず。不潔よ、ふしだらよ、最低！

大事な素人戦場童貞も玄人戦場童貞も運命の戦場、あのベトナム戦争の戦場に捧げたいの。もしくは第二の運命の戦場が現れたら、そっちでもいいけど。もうホント尻軽さんなんだから。

とにかく、これ以上アソコに顔を出し続けたら、またお見合いさせられちゃう、ごめんなさい、カボチャの馬車に乗った運命のお姫様が来るまでずっ～と待ってるだけの童貞王子みたいに、大本命のベトナム戦争が物理的に不可能そうなら、せめて第二の運命の戦場が現れるまでずっとキレイな戦場童貞のままで待ちたいの、例え死ぬまで現れなくとも、純潔を固く守っていく、そんな自称プロ戦場特派員がひとりくらいいたっていいでしょ、この広い世界に。

大問題はよう、とりあえずの運命の戦場こと、ベトナム戦争なんて言う、もうこの世にない戦場に恋焦がれても先がない。

かまととぶって、まだ見ぬ運命の戦場さん、早く私を迎えに来てとやってもいいけど、運命の戦場はご存知の通り、ベトナム戦争です、アッチャ～です、ドラえもんがないと無理です。まだまだこの先長いので、二番目の運命の戦場と出会えるチャンスはなくもなく、せめて間男レベルの運命の戦場くらい見つければ、いけない、せめて理想は高く、気高く、武士は食わねど高楊枝気分ではないかと。

王道をゆくフリーランスの一流戦場特派員だって白い目で見られる世の中と知っていながら、あえて自称プロ戦場特派員という邪道をゆく、更なる修羅の道をダッシュ！ さあ、らっしゃいらっしゃい、寄ってらっしゃい見てらっしゃい、ココが噂の地獄の三丁目、まともな戦場特派員は足も踏み入れない戦場特派員番外地。二度目の人生、第二章、リセットボタン連打して最初からやり直しと行きたいが、コレぞ真のイバラの道、若い頃の苦労は買い占めろって買い漁った関係で、二進も三進も身動きできない。もうノー運命の戦場でもなんでもいいからとっとと見繕って、戦場童貞を捨てさせてくれと何度思ったことか。

とにかくアソコは去る。胡散臭いインチキ学生やクソの役にも立たない学生上がりたてに手を差し伸べるのはココくらいだったけど。汚い手を引っ込めろ！ まあ、儲かる業界ゆえ気まぐれのお遊びでやっていただけではなく、どの業界よりもぶっちぎりで食えないのに一銭にもならないどころか、損しかしなそうなことに突っ込むなんて大馬鹿野郎はアソコのアンタたちくらいだ。

いつか大金持ちになったら、カメラだビデオカメラだを匿名でコッソリ送ろうと決めて、ちょっと小金持ちになったらなったで、もっと上を目指すべく、せめて日本一の大富豪になったらって目標を大きく変更したから、現時点ではまだ何もしてないぜ。

小金持ちになったらアソコに恩返しに行こうと夢見ていたが、実際小金持ちになったら、やっぱり大金持ちになったらと夢がビックに、夢は終わらない、終わらせない。

どうせ誰も俺のことなんか覚えてないだろうから、アソコもカレンも全部抹消しようかと思っただが、しかし俺は腐っても聖人君子で、自ら自称プロを名乗る正直者ゆえ、歴史は改竄せずに正しく意味なく残すべきとの結論に。

でもカレンのことだけは一切なかったことにして、当初からの夢を追い求めようと思う。ベトナム戦争の自称プロ戦場特派員になるんだい。

もう日本に帰国したらこっちのもん、カレン族なんて一貫して一切興味ないし、小声で言っちゃえば、どうなったって知らんべ、イチ抜けた～。

でもね、ファンの、読者の期待は裏切れない。営業努力の放棄。

帰国してから12年。ベトナム戦争の自称プロ戦場特派員になりたかったんだという結論を引きずって参りましたがまだまだ道半ば、いろいろと墓場まで持っていく覚悟は遠の昔に決めておりますので、このペースでのんびりといかせて貰います。

まあ、ベトナム戦争に行ける方法を発見するまでは開店休業中。とりあえずアメ公ともう1回戦争してくんないかなあ、ベトナムちゃん。え、不謹慎？ じゃあ、謹慎してりゃいいのかい？

そんな謹慎不謹慎で生きちゃいねえよ。

もちろん死ぬまで平和ならそれはそれでよし。喜んで戦場童貞で一生をまっとうする腹は決めこんでいる。

それにしてもいつになったら自称が取れるのか。別に一生自称でもいいか。戦場童貞でもいいや。平和が一番。ラーメンは8番。

それにしても自称プロ戦場特派員も12浪目か、一体いつになったら自称プロ戦場特派員になれるのかしらん。ある意味最初からずっとなっているが。

12年選手として、タイから帰国したこの12年間、いつでもベトナム戦争に駆けつけられるように、身体は開けてある、予定は常に白紙のまま。毎日よく食べよく寝て、有事に備える食っちゃ寝作戦のせいで太っちゃった、悲しき職業病だな。

今更引き返せないし、引き返したところで特に他にやりたいこともない。このまま行けるところまで、いや、行けないところ、行っちゃいけないところも構わず、無人の荒野を一人切り開いていこう。

でも世間は誘惑に満ち溢れている。「小学校の卒業式と入学式の写真撮影のお仕事があるんですが、どうですか？」ってカメラ屋から電話アリ。「俺はもうそういうしたくもない浮気はやめたんです。大本命に気づいたのに単なるガス抜きみたいなことはしたくないんです」と電話を叩きつけた！

だってこういうときに一番大事なのは、何もしない勇気。今まで誰もやったことのない、誰も真似しないことをしてやる。24歳から36歳の12年間をドブにポイと豪快に棄てる。

ノストラダムスの大予言、1999年7の月、恐怖の大王が降ってきて人類は滅亡する、しないじゃん、この12年間俺は滅亡してたけど、あ、延長お願いします、でも、まあ、余生みたいなもんだ、適当にいこうぜ、ベイベ、ま、前世紀、20世紀や昭和はそういう時代だったのさ、みんなね。

何もせずに待っている間に、ドンドンライバル同士で潰し合いして消えていくし、生き残ったのもボロボロ、そこでようやくヒーロー登場って流れだな。生存競争が激しく厳しい自称の世界じゃ、一番に登りつめたんだしね。自称の道は長い茨道、まだまだ入口らへん、もっと奥を極めないと。

少なくとも3年や30歳なんて、どっかで聞いたことのある分かりやすいゴールは作らない。

自称プロ戦場特派員界というドマイナー分野の王道すら無理、歩きたくない、王道の道より修羅の道。

まあ、くだらない冗談は好きじゃないのでさておき、またベトナム戦争が起こるまで、もしくはベトナム戦争に行ける手筈が整うまでは絶賛開店休業中なのは事実。てか、実際に新たなベトナム戦争が起きても、やっぱ違うわ、1975年に終わったベトナム戦争じゃなきゃダメだ、タイムマシーン出して、ドラえもん〜んと来そうだけどね。

もしくは新しいピチピチの運命の戦場が現れれば、古女房のベトナム戦争なんて叩き出して、大歓迎しちゃうけど。

だって、俺はダイヤモンドの原石？ おいおい、そんなちっぽけな石コロと一緒にしないでくれよ、せめてデッカイダイヤモンド氷山の一角とお呼び！

こんな自称プロ戦場特派員が世界に一人くらいいてもいいじゃないか。

【最後の締めめの候補】

「メソトかバンコクを去る場面」

「引越し、アソコを去る話」

「ベトナム戦争の自称プロ戦場特派員になりたかった。またベトナム戦争が起きるまでは開店休業でいい、何なら一生戦場童貞のままでもいい、別に引退宣言んじゃない。」

「最初に名刺を作りに行った話もしくはまた名刺を作りに行く話」

「再び象酔いの話、やっぱ運が流れ出ちゃったのがいけない兆候だったのかな。アリの小さな穴からだし」

「入学式卒業式のカメラ撮影仕事の依頼留守電が流れる」

「彼らのその後を...彼らっても俺しかないけど」

「何もしない勇気、20代や30代をドブに捨てる覚悟がなきゃ、何もできない、何者にもなれない。3年やったらだ、30歳までやってダメだったらってどっかで聞いたことのある、さももっともらしいだけで何の根拠もないゴールを決めるやつはパチモンだ。プロは後1年だけ、とりあえず30まで、35まで、40まで、もう死ぬまででいいだろ？ と端から時間制限など無用。一寸先もずっと先も闇でいい。闇雲にいけるから。

金や地位や名声は別問題。そんなもんはたまたま選んだ業界がデカいか、小さいかの違いに過ぎない。モノサシはその業界で100年に一人の逸材かどうかだけ。俺は自称プロ戦場特派員業界じゃ、鶴は千年亀は万年にひとりの逸材だから。地球創世記から地球滅亡まで、誰にも負ける気がしねえ、自称プロ戦場特派員界じゃな。これだけだから、これしかないから、俺にしかできないことを、誰も真似しようとすら思わないことを進んでしましよう。

第一歩が何もしない勇気、血の滲むような、日々の努力でかろうじて継続し続ける何もしない努力、力がありあまった若者なのに、周りの若者たちが何の役にも立たないところに有り余ったパワーをつぎ込んでいるのを横目に見つつ、だって雌伏のときだからね、雲隠れで雲の上の存在になって超越してないと。

何度ももうやめよう、何でもいいからやらしてくれと心が折れかけて挫折しそうになったが、純度100%の充実感が欲しくて、思い踏み留まった。

しかし、そこかしこに甘い罠が、バイトの工場の流れ作業やコンビニの単純作業、米粒に小さい字をたくさん書いたり、爪楊枝で実物大の城を作ったりしても得られるまがい物の充実感と言う甘い罠の数々、青春と若さを捨てて、未来しかない若者がひたすら我慢して何もしない、それがどんな難事業か想像に固くない、ちょっとどこ固くしてんのよ、ドスケベ！

まあ確かにぶっちゃけ、働きたくないとまでは言いませんが、まあどちらかと聞かれれば、勤労意欲とか皆無な方ですがそれが何か、少なくともてめえに関係ないだろタイプです。ただ怠け者やニートやひきこもりや無職と一緒にしないでください。

俺は自分のやりたいことを、やりたいときに、やりたいようにしかやりたくないわけ。これを貫き、実現するのは我慢我慢の子を定年まで続けるよりずっとずっとずっ〜〜と大変だから。だって、我慢するモチベーションは我慢しないと出世できなくなっちゃうからでしょ。出世の見込みがなくなったら、我慢しないと左遷されちゃうからって新たなモチベーション、左遷されたらされたで我慢しないと首になっちゃうってまた新たなモチベーションでしょ。ガスヌキは居酒屋の愚痴とガス爆発は満員電車で痴漢とかでしょ。

こちとら、最初から馘首状態、超一流になったって、コツコツ仕事したって食えないって分かっててやってるんだ、この自称プロ戦場特派員業界の最先端で。更に、いやせめてか、こんな状況だからこそ、どうせ仕事しても食えないなら、あえてやりたいことだけ、やりたいときに、やりたいようにやってやろうってもくろみですよ、コレは。

まあ、何でもタメがないと、プロスポーツ選手だって3歳から始めて、花開くのは15年後の高校卒業後。仮に中1と早咲きでも3歳から13歳までと10年のタメがある。

会社員だ公務員だって名の使用人連中だって、中卒でも小中の9年、大卒なら小中高大の16年間の下積みを経てるわけだからね。

どんな職種でも10年続けてようやくそれなりの一人前。

白馬の王子様が現れるまで待つんだ、そこらの駄馬や種馬で妥協せずに、まさにプラトニックラブ。

俺はいつまでもこんなんでいいのだろうか、「いいよ」（ほら、聞いただけ、「いいよ」だって、だから、頭が低いよ、頭が。さあ、ラチャブリ事件発覚の伏線で～すってところからずっと素直に土下座していた連中、頭を上げたまえ。もう全部終わったよ。

戦犯探し。初陣、第一幕はこうして幕を閉じた。第二の人生なんて断ってる、禁煙&禁第二の人生。

無期限活動休止。雲隠れで雲の上の存在。誰も到達したことの無い高みへ。ご長寿仕事。12年後、12年間の沈黙を破り、12年間の雌伏を経て、12年前の骨を拾ってやれるのは俺しかない、14歳から24歳までの10年間、生まれてから24歳までの24年間、そして生まれて36年間片時も自称プロ戦場特派員であることを忘れたことはない、頭のすっごい片隅で。

時間がすべて解決してくれると思ってたけど、ほとんど解決できてねえでやんの、使えねえな、12年間もの時間野郎は超期待はずれ。

お前らはまだこの12年間という長い時間の積み重ねの本当の恐ろしさをまだ知らない。

売れない自称プロ戦場特派員志望から、売れない自称プロ小説家志望に華麗なる転身を遂げたわけじゃない、あくまでも本業は売れない自称プロ戦場ジャーナリスト志望だかな。

さすがに12年も経つと、周りにたくさんいた有象無象が自然淘汰されてスッキリ、やっぱ急がば回れ、ま、時差通勤みたいなもんだ。

12年前に世に出てもよかったけど、がつついてる早漏みたいではしたないじゃん、世に出る自信があるなら殿まで何もせずに待ち続け、そしてパチモノが消え去り、生き残った早漏どもも満身創痍になった頃、ようやく満を辞して、「おまた、寝坊しちゃった」と現れる、そう、ヒーローと本物の天才と俺は最後に現れるもんじゃん。

働き盛りの働き者には365日24時間働くよりもつらいのが何もしないこと、ゆえに何もしない勇氣！ お前らにはわからねえだろうな。

それをグッと我慢の子。名ばかりの自称プロ戦場特派員じゃない。内実はある。常にベトナム戦争にかけつけられるように、常に体と予定はあけてある。余生やプチリタイヤじゃないから。

一朝、事起これば、馳せ参じる所存で、毎日ブラブラ、食っちゃ寝でダラダラ、英気を養うも自称プロ戦場特派員の処世術。いざ鎌倉のときだけががんばりゃいいさ。ラチャブリは鎌倉じゃねえだろ、ラチャブリはタイ、鎌倉は日本だ。いざ鎌倉はいまだ来ず。

1日たりとも自称プロ戦場特派員気分をなくした日はないし、一度たりとも自称プロ戦場特派員をやめようと思ったことはないし、この先もそんな日が来ることはないっしょ。生まれつき自称ベトナム戦争のプロ戦場特派員、生まれつきバカや、生まれつきちょっとアレな人みたいに。

バカは死ななきゃ直らない。

追悼 これを機に引退宣言などするもんか、日曜自称プロ戦場特派員になんかたってたまるか、いつでも戦場に行けるように365日24時間体と予定は開けている、この12年間、そしてこの先もずっと。

時節が来るまで遊んで暮らす昼行灯、うら若き24歳からオラオラ中年36歳を男の意地にかけて。質の悪い女にひっかかって、溺れたと諦めるしかない、ベトナム戦争は極悪非道悪女、自称プロ戦場特派員は魔性の女魔女っこメグ。

自称プロ戦場特派員デビュー12周年記念で、第3の人生を、まあ、新自称プロ戦場特派員と肩書きがちょっと変わるくらいだけでも。それとも優秀な種馬として自称プロ戦場特派員2世のサラブレッドを作るか仕込むかイクよ！

後はまあ、そろそろ後進の自称プロ戦場特派員を育てる時期なのかもしれない、もちろん現役のまま。選手兼コーチの二足のわらじ。後進の自称プロ戦場特派員たちに恥ずかしくない手本、もしくは恥ずかしい反面教師になれば、自称プロ戦場特派員界の裾野、底辺拡大ができればそれだけで望外の幸せです。

自称プロ戦場特派員の星になるまでやる。目標にされるような人間になりたい、ニートやヒキコモリの憧れの的。

自称プロ戦場特派員界に人が押し寄せてきてもちっとも困らない逆に大歓迎、一億年にひとりの逸材だから負ける気がしねえ、束になって闇夜に後ろからかかってこいや。

自称プロ戦場特派員の資質として何もしない勇気が必要だから、ニートや引きこもりは有利かな。特典はタイで毎日昼間からマックに入り浸れる外こもり。後釜。ババ抜きのパバ係。

引退するわけないじゃん。好きで入った世界だもん。一生現役続行宣言。新天地で新境地。

叩き上げの苦労人。売れないフリーランスの戦場特派員より、売れる自称プロ戦場特派員。長いスパン、長期戦略でやってんだ、100年後の成功を夢見て。

俺の話最後まで聞いた奇特の人のうちひとりでも、カレンに興味を持った人は取材に行っ
てちょ。医者や看護婦ならボランティアに、傭兵を目指す人はどうぞ、政治家を目指す人は外交
みたいのをどぞ。外交官を目指す人は税金で女買うな。

幸い俺は生まれつき、好奇心に、後は正義感とか系でしょうか、すいません、そういうのは
今ちょっと持ち合わせが、ま、いつもねえけどさ、そんな見栄えだけいい結構なもんは。

正義感はない、義務感も使命感もない、別に戦争反対派じゃないし、平和万歳派でもないし、
ボランティア精神や道徳心もないし、戦争をなくすため、平和のため、民草にシモジモに真実を
伝えるためなんてのは一切ねえよ、ホントいっそ清々しいくらい微塵もない。伝えたいメッセ
ージなどもない。強いて言えば、「こんなもん読んでるヒマあるならチンコやマンコいじってろ、
死ぬまで」ってメッセージをキミたちへ。

世の中を変えたいなんておこがましい。反権力だ社会派だは恥かしい。

世界を見よう、知ろうとは思わない、いろんな国の人と友達になろうなんて馬鹿丸出し。

今まで、そして、これからのカレンのどの本より、せめて売れなきゃ。せつかく12年間の沈

黙を破って、書き上げたんだから。

とここまでコレを読んだ暇人もきつとこんなじゃ、何も触発されないだろうから、命令する、政治家になれ、医者やナースになれ、金持ちになって寄付しろ、ボランティアになれ、自称プロ戦場特派員にはなるな、うっとうしい、目障り足でまとい。

俺はフリーランスの戦場特派員の王道はちょっと、トップ屋もアレだし、ドキュメンタリーもめぼしいところには既にハイエナどもが、とりあえず新しい第三の道を探るべく、小説家にでもなって名を売り、小金を貯めて、大名取材をしよう、いいねえ～。

自称プロ戦場特派員もどきだった過去をキレイに消して、「そういえばオレ、小さい頃から小説家になるのも夢だったんだよね。まあ、小説家で一発当てて、そのドサクサと大金に紛れて、セブな自称プロ戦場特派員の道を一人行き、下をゾロゾロひきつれて、大名取材しちゃうんだもん」。

以下、夢と予定がいっぱい。

じゃあ、次も12年後、俺が48歳のときにお会いしましょう。

そろそろ泣かせに入って、お開きにしないと。じっちゃんの形見の財布を落としたよ。泣きそう？ ほら、泣けよ。

財布の話じゃ泣けないよな。財布の中身の話じゃなきゃ。

最後は金の話で締めよう。

商業取材だったわけだから、完全に商売あがったりだ。収支決算、古本売って儲かった分だけ、ちょっと黒字かな。後は軒並み大赤字、必要経費や初期投資は莫大さ。今となっては飛行機代も分からない。領収書とか取ってないから、税制上は経費ゼロって扱われかねないね。まあ、謎の資金源はおばあちゃんだからいいんだけど。

最初に作った100枚の名刺はまだ後90枚くらい残って。

12年で10枚ペース、一年に一枚弱。自称プロ戦場特派員はまだまだ始まったばかり。切り札がたくさん残っているから。

さて、最後に最後のお楽しみ、追伸だよ。

思いっきり言い忘れていたけど、本当は当時の彼女が最初の2週間程、卒業旅行ってことで便乗しました。

じゃあ、最後は一本締めで、皆さん、お手を拝借、よ～、パンパンスパンスパン、おらおらおらあ～！

○本日の出費、「計算するのが面倒臭いから、各々で適当にしといてよ」B。ついでに一日の流れも「いちいちうっとうしいから誰か簡単にまとめといて」ジャ～。

*1999年12月15日から2000年2月5日までお送りしてきた『12年前日記』を数ある資料の一つとして、書き上げたのが以下である。

『富裕層の恋人 元祖富裕層向け電子書籍第一弾はなんと... サンプル号』（無料。2010年10月11日（月）創刊）

<http://p.booklog.jp/book/11740>

というわけで、壮大なる宣伝を53日間、毎日コツコツとお送りしました、ご覧の Sponsor なしで。

『12年前日記 2000年2月5日(土)』

<http://p.booklog.jp/book/43741>

著者：山田夫妻

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/yamadafusai/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/43741>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/43741>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社paperboy&co.